

たぎっ みや どころ

第 1 1 号
(通算第 14 号)

くすの杜から吉野川を望む

2023 年は元正天皇の吉野行幸 1300 年！ — 「元正天皇の吉野行幸を考えてみた」

※本誌の一部でイラスト AC の画像を使っています。

吉野歴史資料館からのお知らせ 吉野歴史資料館のイベントご案内、実施した事業の報告などを紹介します

令和 5 年度 職場体験報告

今年度も吉野さくら学園の生徒さんが職場体験に来てくれました。彼らの感想をご紹介します。

「さくら」 三日間の体験の中で感じたことは、伝えることが難しいです。体験中は、初めて知る知識を頭につめ込んでいく作業が多く、それだけで大変でした。ですが、担当の方は話した後の方は必ず、これらを分かりやすく伝えることが難しい」と言うのです。(中略)

一番印象に残っているのは二日目の見学で、遺跡を探索するその土地を余すことなく歩き回るのが、知りませんでした。今まで認識では、博物館の人たちは、展示品を管理して、展示のことが仕事だと思っていた。ですが、実際のところはそうではなく、大きく一つの機軸があるのだそう。それは、収集・管理・研究・公開です。非常にアクティブであり、大変だと感じます。

その中でも、私が特に大変そうだと思うのが「公開」です。自分いかに知識を、相手に細かく説明するとは難しいこと。研究し、調べて、得た知識を、不特定多数の人間に伝えること、そこには分かりやすさが必要で、たくさん工夫があります。人への情報を伝える仕事で、重要なのは、分かりやすさであると感じました。(後略)

【さくら】 ばくは今回の職場体験学習を通して働く【さくら】 ばくは今回の職場体験学習を通して働く【さくら】 ばくは今回の職場体験学習を通して働く

たぎつみやどころ 第 11 号 令和 6 年 2 月 1 日発行

【編集】 吉野歴史資料館 奈良県吉野郡吉野町宮滝 2-2-2 宮滝 2-2-2 宮滝 2-2-2
【発行】 吉野町産業観光課 奈良県吉野郡吉野町上 80-1 宮滝 2-2-2 宮滝 2-2-2

資料館HPでも情報発信中！ <http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dennou/relshishin.html>

HP



YouTube



二〇二三年 文化財ニュース

二〇二三年も、吉野町に新しい国指定文化財が増えました。「金峯山経塚出土 紺紙金字経」です。平安時代の貴族・藤原道長やひ孫の藤原師通が埋納したものです。

二〇二四年は「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録 20 周年！しかも藤原道長が大河ドラマ「光る君へ」で紹介される予定です。その前年に、非常におめでたい指定となりました。

学芸員は語りたい、始動

吉野の歴史などについて、資料館職員がお話するミニ講座「学芸員は語りたい」吉野の物語・よもやま話」を始めます。

【開催概要】

- 開催日時・年 4 回(原則、左記の予定)
・ 6、8、10、12 月の第 3 金曜日 19 時
- 内容・吉野にまつわる話を紹介。
※内容は HP や町広報でお知らせします。
- 会場・吉野町中央公民館(原則)
- 資料代・100 円(各回)
- 備考・資料館 YouTube
で公開予定です。



ることと同じでビックリしました。(中略)

二日目は、まず吉野の本のことについて詳しく教えてもらって、それから常本は説明を聞きながら「くすの杜」のその後、マクラをきれいにしなから、中略。

吉野が紹介されました(令和 4 年度 5 年度)

左記の刊行物等に写真提供や協力等しました。

- ・ 毎日新聞奈良版「ワカユキ」を寄稿
- ・ 朝日新聞奈良版「ワカユキ」を寄稿
- ・ (公財) 現代奈良協会「月刊奈良」RS・3 月号
- ・ NHK フラタモリ 21.3.8

・ 環海町 日本・世界の歴史遺産

左記の講演・案内で講師が講師を務めました。

・ 第 3 回大阪仙伝会報告会(3 月)

・ ハル大祭典(大阪大学提議) 4 月

・ くくるベアーズシアター観劇会(5 月)

・ 吉野町観光ボランティアガイド研修会(6 月)

・ 南朝講座「平家物語」南朝のさくら(7 月)

・ 飛鳥山山クラブ フォトリックアップ研修(9 月)

本善寺歴史資料調査講演会のお知らせ

日時・令和 6 年 2 月 18 日(日) 14 時 開催
会場・吉野町中央公民館 大ホール
講師・本善寺歴史資料調査指導委員 岡村真史氏
本善寺歴史資料調査主任調査員 大原 眞氏
※申込みは 2 月 10 日(金) まで電話で連絡ください。
※令和 6 年以降、2 月 18 日を公開予定の講演会は郵送等行い、申し込み、申し込みはご遠慮ください。

12 月 2 月は全休、お問い合わせは左記まで。
TEL:074-926-2222 E-mail:relshishin@yoshino-town.jp

吉野歴史資料館だよりは、希望される方に無料で送っております。詳しくはお問い合わせください。



二〇二四年 陳列予告

二〇二四年は 2 つの陳列を行います。

① 光ありとみ

・ 平安文化と藤原道長でみる吉野
② 万代に変わらずあむ

・ 聖武天皇の吉野行幸(760 年記念)

○予定会期・令和 6 年 3 月 2 日(日)12 月 1 日

○会場・吉野歴史資料館 展示室内

宮滝遺跡の整備工事開始

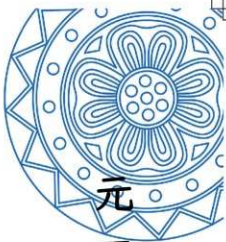
平成 25 年度から文化庁との協議や計画づくりをすすめてきた宮滝遺跡。いよいよ、来年度から一部工事がはじまります。

盛り土をして、園路整備や看板設置。すぐには完成とはいきませんが、応援をよろしくお願いします。

資料館ちよつとりフレッシュ

令和 5 年度の冬季休館(12・2 月)の間、吉野歴史資料館のリフレッシュ工事を行います。動きが悪くなってきていた空調設備や、電気設備を改修します。

資料館も今年で 27 歳。ご近所の方などにはご迷惑をおかけしておりますが、引き続き頑張っております。



元正天皇の吉野行幸を考える

吉野町産業観光課（兼・吉野歴史資料館） 中東 洋行



◇元正天皇の吉野宮行幸一三〇〇周年

二〇一三年は、元正天皇の吉野宮行幸から一三〇〇周年にあたります。そして二〇二四年は、元正天皇から譲位された聖武天皇の即位一三〇〇周年、さらには聖武天皇の吉野宮行幸から一三〇〇周年になります。吉野宮跡に比定される宮滝遺跡、その整備をすすめる吉野町にとって、ありがたいメモリアルです。

そうはいっても、元正天皇といわれて「ああ、あの！」となる方はどの位いらっしゃるでしょうか。お恥ずかしながら私自身、少し調べてようやくと「あ、三世一身の法の時代の天皇か」という認識でしかありませんでした。ですから、「なぜ元正天皇は、聖武天皇に位をゆずる前年に吉野宮を訪れたのか、なんてジツクリと考えたこともなかったのです。

元正天皇のことを知る必要があります。そこで、元正天皇の治世を『続日本紀』で追ってみることにしました。

読後、私は元正天皇の手腕のすごさを痛感していました。なにせ、自分の存在感を後世にのこさないようにしつつ、なすべきことを徹底的に進めた方だと、私の眼には映ったのですから。

霊龜元（七一五）年に即位した元正天皇の取組は、大きく3つに整理できます。農耕推進、長年のしがらみの整理・統制、先代・元明天皇から託された、聖武天皇への引継ぎ準備です（他の政策への言及は、ここでは控えます）。

前者の二つは、とても地味に見えるかもしれませんが、元正天皇は元明天皇から、「本来ならば天皇の位を皇太子（聖武）に譲るところだが、まだ年が若い、内親王（元正）は人望がたかく寛大で、徳もある。そこで、皇位を内親王に譲る」と宣言されて天皇の位を託された方だ、という前提にたてば、見え方が変わります。元正天皇は、聖武天皇によりよい形でバトンをわたすために、国力増大とクリーンな体制づくりにつとめたのではないでしょう。聖武天皇への引き継ぎ準備は、養老

今回ようやく、元正天皇の解説書や専門書を調べたのですが、吉野行幸についての説明は見当たりませんでした。しかし、このまま「分らない」で終わる訳にもいきません。私なりに『続日本紀』や「万葉集」をみて考えたことを、つらつらご紹介いたします。

◇「万葉集」にみる違和感

繰り返して恐縮ですが、当初、私は元正天皇の吉野行幸について、特に（正直に話しますと、全く）気にとめていませんでした。ですが、調べれば調べてみるほど、元正天皇の吉野行幸は「ただの行幸ではないのでは？」と思うようになってのです。その理由は2つあります。

①吉野行幸は、先代代の文武天皇以来、実に20年ぶりのできごとでした。なぜ元正天皇は、20年ぶりの吉野行幸を計

画する必要があったのでしょうか。

②元正天皇の時代、吉野宮を除いて、少なくとも8回の行幸がなされています。しかし、「万葉集」にはいずれの行幸のときの歌も見当たりません。もっと言えば、先代の元明天皇も各地へ行幸されていますが、その時の歌が「万葉集」に載っていないのです。つまり、元正天皇の吉野行幸は、「もしかしたら」実に17年ぶりに、歌が詠まれた行幸だったのかもしれない。

吉野町職員という立場もあり、この2点の違和感が、「どうして元正天皇が吉野行幸をしたのか知らない！」という私の思いに火をつけたのでした。

◇元正天皇の治世は

元正天皇の吉野行幸には何ウラがあつたのか。これを考えるには、まず

5（七二二）年、元明太上天皇の崩御とともに加速します。この年、元明天皇は皇太子（聖武天皇）の教育体制を強化、養老6（七二二）年、母・元明太上天皇の一周忌をおこない、神龜元（七二四）年に元正天皇は聖武天皇に皇位を譲られたのです。今、何が課題で、何をなすべきで、どの様に皇太子へ譲位するのか、徹底的なまでに、自分の立ち位置を俯瞰し続けた方だと感じました。

◇元正天皇の吉野行幸を考える

では、元正天皇の吉野行幸について考えてみましょう。元正天皇の吉野行幸は、養老7（七二三）年、つまり、聖武天皇に譲位する直前に行われています。

そして、元正天皇にとっての吉野は、祖父・天武天皇が「壬申の乱」をおこした場所であり、祖母・持統天皇が何度も訪れた場所、という認識だったでしょう。持統天皇の吉野行幸の際、多くの歌が詠まれたことは「万葉集」にのっている通りです。例えば、持統天皇の時代から聖武天皇の時代まで宮廷に仕えた大伴旅人は、晩年に太宰府へ異動した後、故郷を思う歌として奈良、飛鳥（藤原）そして、吉野を題材にした歌を詠んでいます。

す。それほどまでに、当時の年配の官僚たちにとって、吉野は象徴的な場所だったことでしょう。一方で、20年近く訪れていないわけですから、若手の官僚などにとってはウサで聞いたことがある位の、疎遠な場所になっていたに違いありません。

だとしたら、元正天皇が吉野行幸をし、そこで歌を詠ませたことは、自身を祖母・持統天皇になぞらえ、その意思を皆に思い知らせようとしたのでしょうか。あるいは、首皇子・聖武天皇に天武、持統天皇の遺志を伝えようとしたのでしょうか。皇位継承の布石であったことは間違いないでしょう。このように疑ってみると、吉野行幸の前年、元正天皇が天武・持統天皇のために遣仏していることも、意味深に思えます。

そろそろ紙面が足りそうです。本稿の内容についてお話しした動画が、資料館で「Eテレ」でご覧いただけると思いますので、気になる方はご覧ください。

また、元正・聖武天皇の行幸があった吉野宮跡比定地と宮滝遺跡の公園整備を応援いただけると幸いです。

